
ケンカ

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ケンカ

【コード】

N0523U

【作者名】

RAN

【あらすじ】

ヘタレ男が、彼女のために頑張る？

サイト、dノベ転載。

僕はどうやら彼女を怒らせてしまったようだ。
三日前から彼女が口をきいてくれない。
これはとつても困った。

彼女は明るくてみんなの人気者。
僕は地味で何をやってもダメなヤツ。

彼女は僕の憧れだった。
そんな彼女が、僕を好きだと言ってくれた時はすごく嬉しかった。
彼女を大事にしなきゃと、そう思っていた。
なのに。なんだろうこのざまは。

「なんか喋ってよー。謝るからー。許してー」
彼女が何で怒っているのかわからないから、僕は謝るしかない。
でも、僕が謝れば謝るほど、彼女はますます怒ってるみたいだ。
助けを求めても、みんな見て見ぬふり。
視線を向けてもみんな慌てて目をそらす。
どうしよう、僕は何を彼女にしまったんだろう。
何をすれば彼女に許されるんだろう。

「もう、別に怒ってない」

「え……………」

一週間目、彼女は突然そう言った。

僕は驚いて、彼女をただ見ているしかなかった。

「なんでお前はすぐそうやって謝れるんだ？」

「え……………」

「なんかお前は私をまるで腫れ物に触るように扱ってる」

「……僕は……君が大事だから。傷つけどくないから」

違う、自分が傷つきたくないから。

君を失うのが怖いから。

なんで言えないんだ、僕は。

ほら、彼女がまた怒ってる顔になってくよ。

「私は傷つくことを恐れない。お前が私に触れてくることを望んでる」

「……………！」

「お前はいつも私を恐れてる。私は、辛い……………」

僕は悔しかった。

彼女にこんなことを言わせてしまっている自分が情けなかった。

「……………！！」

僕は悔しかったら、今回だけは頑張った。

本当は体が震えてしょうがなかったけど、彼女を抱き寄せた。

「ごめん。僕はただ怖かっただけなんだ。何かして君が僕から離れてくのが」

それから、彼女が僕を抱き返してくれた。

嬉しくて、僕の体は固まってしまった。

「私だって怖い。でも、こうして確かめあえば、何も怖くなくなるはずだ」

ああ、僕はなんてバカだったんだろう。

彼女は僕をこんなに大事に思ってくれてるのに。

僕が自信を持たなきゃダメだったのに。

「うん、ごめん。これからは、君のために恐れないよ」

僕はもっと強くならなきゃ。
せめて、君を不安にさせないように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0523u/>

ケンカ

2011年6月15日14時53分発行